

《なす高原自然の家のプログラム》

スノーシューハイキング

時 期 冬

時 間 1～2時間

場 所 自然の家周辺

○スノーシューを装着して、自然の家周辺をハイキングしながら自然に親しむとともに、植物や動物の足跡などを観察する。

ねらい

- ・厳しい環境の中でも、動植物は生きているということを知る。
- ・身近な自然に積極的に触れようとする態度を育てる。
- ・自然の美しさに対する豊かな感性を育てる。

活動の内容

- (1) スノーシューを装着し準備運動をする。
 - ・歩いている途中、外れないようにしっかり付ける。
 - ・十分に準備運動をする。
- (2) 雪に親しむ。
 - ・歩く、鬼ごっこ、足跡や人型を雪上に残す。
 - ・雪の浮遊感を感じながら歩く。
 - ・いろいろなポーズをとって、そのまま雪の上に倒れる。
※指導者が手本を示す。
- (3) 動物の足跡を探す。
 - ・ウサギ、キツネ、タヌキ、テン等の足跡を探す。
 - ・足跡を見つけたら、何の動物の足跡なのかプリントで調べる。
 - ・デジタルカメラで撮影をしておくのもよい。
- (4) 雪の結晶や植物の観察をする。
 - ・木の枝に新しい芽があることを確認する。

準備するもの

- ・スノーシュー
- ・防寒着
- ・動物の足跡が印刷されたプリント
- ・デジタルカメラ
- ・虫眼鏡と黒い画用紙

自
然



活用ガイド

○活動の様子



雪の下にも春があるかも。
(雪を掘って地面のようすを観察)



雪の結晶も観察できる。

雪の結晶って、
こんな形をして
いるんだ。

○遊び方

・雪に親しむ

コースから外れてもいいので、できるだけ自由に雪の上を歩く。新雪の上を歩くと浮遊感を感じることができる。

鬼ごっこは、スノーシューを着けたまま実施するので、普段雪のない校庭などとの違いを感じながら楽しむことができる。

足跡や人型は、まだ誰も歩いていない新雪で実施する。倒れるときは、まわりに大きな石や木の枝がないことを確かめてから、勢いよく倒れる。



○ワンポイントアドバイス

スノーシューという活動自体が貴重な体験であるが、さらに雪に親しむ活動を加えることで広がりをもたせることができる。

普段なかなか目にすることのない動物の足跡などは、興味をもって観察することができ、冬でも冬眠せずに活動している動物がいることを実感できる。

なお、実施にあたっては、防寒対策を十分にしておいて活動に臨ませる。

○活動にあたって参考となる文献

- ・今泉 忠明 「アニマルトラック&バードトラックハンドブックー野山で見つけよう動物の足跡ー」
自由国民社（2006）